

令和元年度 自己評価表

鳥取県立琴の浦高等特別支援学校

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○社会の中で自立して生活ができる力の育成</li> <li>○職業生活に必要な意欲と能力の育成</li> <li>○豊かな人間性、たくましく生きるための心と体の育成</li> </ul>	<p>今年度の重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>職業的自立と主体的な社会参加に向けた確かな力の育成</li> <li>琴の浦教育検証プロジェクトに基づいたカリキュラムマネジメント</li> <li>地域との協働による魅力的な学校づくり</li> </ul>
--	---

年 度 当 初		評 価 結 果 ( ) 月						
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
社会人・職業人としての基礎的な力の育成	○基本的な生活習慣の確立 (指導部・学年部、学科部、寮務部)	○多くの生徒がSNSを利用し、夜遅くまで長時間使用したり、トラブルにつながってしまったりすることもある。 ○睡眠時間の不足や人間関係の悩み等から生活リズムが崩れたり、学習に向かうことができなかつたりする生徒もいる。	○携帯電話等の使い方についてのルールを守る意識を高めるための取り組みを行う。	○「我が家のルール」や「決意表明」を作成し、個々に応じたルールを定めたり、定期的な見直しを行ったりする。 ○個人懇談等を通して家庭と情報共有を行う。 ○講演会や学年集会等で定期的に情報モラルに関する指導を行う。 ○教職員を対象とした情報モラル研修を実施する。				
		○基本的な生活習慣を取り入れた「専門教科共通目標」を生徒に尋ねてもきちんと答えられる生徒が多くない。	○専門教科共通目標が社会人として必要なことであると生徒が理解し、各学年目標に到達しようと常に意識している姿が見える。	○各コースの実習で、専門共通目標の項目を復唱したり視覚的補助を行い理解を深める。さらにふりかえりシートの活用を促し、年間を通じた指導を徹底する。 ○全職員が自ら見本となるような動きを生徒に見せる。				
		○声かけなどの起床の支援をすれば、起床時間に起きることのできる舎生が8割程度いる。	○目覚まし時計などを利用して、8割の舎生が自力起床できる。	○自力起床強化期間を設定し、自分で起きる習慣の定着を図る。				
		○学習における基礎・基本の徹底 (研究研修、教務部)	○大多数の生徒が守れているが、「学習のルール」が日がついて指導者・生徒ともに曖昧になることがある。	○授業準備、チャイム着席、授業のあいさつは年間を通してできている。 ○姿勢、発表は生徒アンケートの結果が前期に比べ後期は向上している。	○全ての教室に「学習のルール」を掲示するとともに、将来に繋がることを理解させ継続的な指導を行う。 ○学習規律を高め、良い授業づくりのための学習環境を再点検し整える。 ○授業に集中できない事が多くなった場合は、生活習慣が整えられるよう保護者と連携を図ったり、対処方法を指導者が共通理解し共通実践したりする。			
		○職員がそれぞれの担当教科を熱心に指導しているが、系統立てた支援ができるまでには至っていない。	○職員の授業力を向上させ、生徒に「わかる授業」「できる授業」を提供する。	○スーパーバイザー派遣事業研修を活用し、職員全体で研修会を2回実施する。				
		○ライフスキルの育成 (進路部)	○自己理解が難しく、進路選択がうまくできない生徒がいる。 ○働く心構えが不十分なままに就職してしまう生徒がいる。	○生徒が卒業後の生活について具体的に考え、必要な内容に意欲的に取り組んでいる。	○進路行事の内容を見直し、将来について自分で考え、行動する機会を設定する。 ○卒業生の就職先から情報を収集し、必要な指導についてまとめ、職員研修、通信等で発信する。			
		○職業的スキルの伸長 (学科部)	○進路先からのニーズとしてフォークリフトの運転資格を持つ生徒がいないか、との要望がある。	○講座の受講だけで運転可能となるフォークリフト(1t未満)の運転資格を取得する生徒がいる。 ○積極的に受検し、練習に真摯に取り組んでいる。	○綿密な受講計画を立て、生徒の合格意欲が維持できるように工夫する。			
			○現場実習での課題について専門教科での学習で解決するような連携が十分に取れていない。	○生徒個々の課題を容易に進路部と学科部が共有し、進路実現のための連携がより進む。	○生徒個々の課題を端的に共有できるような方策を進路部及び学年部と協議し見つける。			
			○各コースで地域産業との連携を進めているが、社会人としてどういうふう評価されているかを把握している生徒はまだ多くない。	○地域の産業と携わり協働することで、他者からの評価を得て、自分の今後の目標を立てることができるようになる。	○協働する際に、生徒への評価のシート記入をお願いし、専門共通目標の他者評価を専門教科実習に活かす。			
	地域で生きる力の育成	○自治活動の推進 (指導部、寮務部)	○生徒会活動や学校行事において、司会や運営等、年間を通じて生徒が携わる場面が増えてきている。	○生徒が主体的に活動や行事の企画運営に係ることができるようになる。	○生徒主体の自治活動となるよう活動の目的や課題を確認し、計画的に話し合う機会を設ける。 ○生徒会執行部会を定期的に開催し、生徒間での相互評価に取り組む。			
		○寄宿舎が過ごしやすくなるように自治会でのスローガンを掲げ、達成するための月目標を決めているが、個人でできる取組を考えると、全員で取り組んだり振り返りする機会がない。	○舎生全員で具体的な取組を考え実践し、8割の舎生が月目標を達成できている。	○部屋会やリーダー会などで、みんなが意見を出しやすい仕組みや環境を整える。 ○3役や部屋長と連携し、自己評価の共有や取組内容を決め、支援する。				
教職員の専門性・授業力・組織力の向上	○教育課程の見直し (研究研修・教務部)	○教科会は毎年実施しているが、各教科間の連携(横断的連携)は十分とは言えない。	○生徒が「わかる」「できる」授業を実感し、学習意欲を高め、生活に学んだことを活かしている。	○新学習指導要領を踏まえて年間指導計画及び教育課程について見直し、検討する。				
	○地域資源を活かした教育活動の推進 (総務部・支援部)	○学校関係者評価や学校運営に関する意見をいただいていた。	○コミュニティ・スクールとして学校、地域関係者が連携・協働体制を確立する。	○スケジュールに基づき、計画的に組織を立ち上げ、運営を行う。				
		○学校や企業に対し、「琴の浦の教育」について十分に伝わっていない。	○「琴の浦の教育」の理解を進めるための取り組みを、工夫して行っている。	○就労による社会自立に向けた指導・支援について研修場の設定。 ○学習場面への参加や公開による啓発活動の実施。(学校説明会、オープンスクール、企業参観日等)				
		○組織的な指導・支援、対応力向上 (総務部)	○校内研修を計画的に実施し、教職員としての専門性を高める必要がある。 ○コンプライアンスの意識を常に持ち、職務の遂行にあたる。	○多くの教員が研修に参加し、専門性を高めることに取り組む。 ○コンプライアンスの意識を常に持ち、職務の遂行にあたる。	○初任研やエキスパート教員の公開授業、自主研修等に参加する。 ○終礼や長期休業中にコンプライアンス研修を実施する。			
		○業務改善において時間外業務は前年度7%削減の達成状況であった。	○時間外業務の10%削減。	○毎月の衛生委員会で時間外業務削減状況について確認し、全職員へ報告する。				

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し  
 [100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]